

第21回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成21年2月

応募者名：横浜市道路局

事業の名称：都市計画道路吉浜横浜公園線街路整備事業
(首都高速横浜公園出口)

実施都市名：横浜市

事業目的

横浜公園出口は、首都高速横羽線の石川町ジャンクション付近で、首都高速湾岸線方面からの出口（オフランプ）を整備するものです。

本出口を整備することにより、湾岸線方面から中華街・元町や大榎橋方面および主要行政機関（横浜市役所、神奈川県庁等）が集中する関内・関外地区へ直接アクセスできるようになり、交通の利便性が向上します。

また、高速湾岸線方面からの交通が分散され、周辺地区の街路の渋滞緩和につながります。

本事業は、都心機能の強化、関内・関外地区の活性化、街路の混雑緩和に寄与することから、横浜市の街路事業として首都高速の出口部を整備しました。

事業概要

事業名：都市計画道路吉浜横浜公園線整備事業

路線名：横浜国際港都建設道路事業1・7・1号
吉浜横浜公園線

事業箇所：横浜市中区吉浜町～中区横浜公園

事業延長：約0.6km

幅員：約6m

道路構造：高架構造（460m）、擁壁構造（100m）

車線数：1方向1車線

設計速度：40km/h

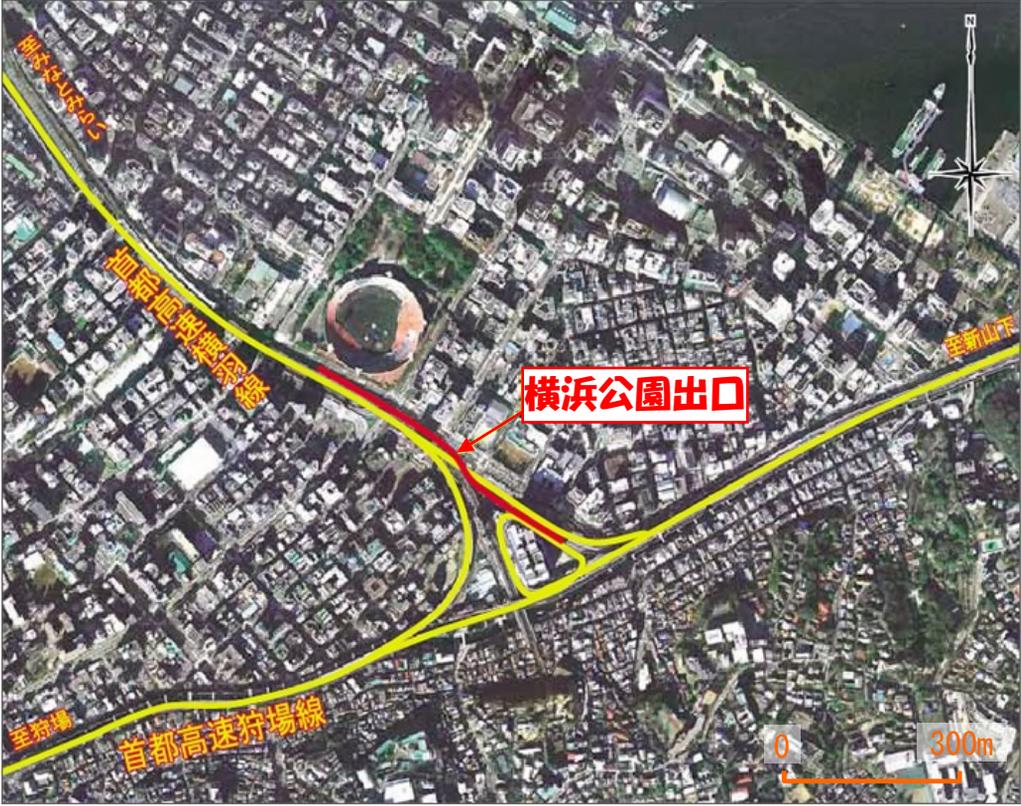
総事業費：約20億円（横浜市事業）

約5億（首都高速分岐部・首都高速道路(株)事業）

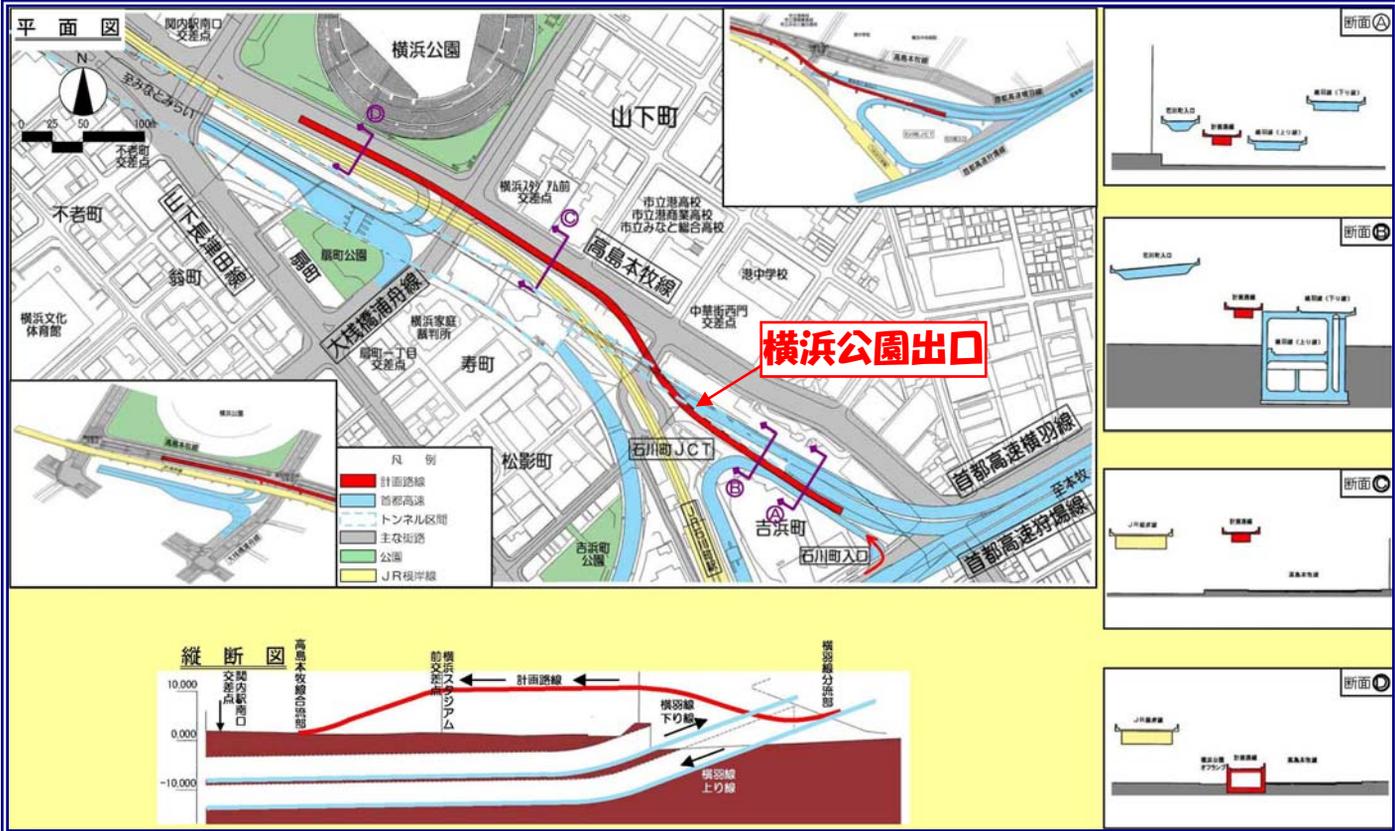
事業期間：平成16年度～平成19年度

（平成19年11月21日供用開始）

事業位置図



全体図 (平面図・側面図・横断図)



横浜公園出口の整備効果アピール資料

「整備効果」

○中華街や大さん橋方面及び主要行政機関（横浜市役所・神奈川県庁等）が集中する関内地区へ直接アクセス出来るようになり、交通利便性が向上した。

これにより、関内・関外地区の活性化はもとより横浜全体の経済活動や観光面において、さらなる発展が期待される。

東京方面からの場合：「新山下出口」利用に比べ **6分短縮**

磯子方面からの場合：「三溪園出口」利用に比べ **13分短縮**

○高速湾岸線方面から関内・関外地区への交通が横浜公園出口を利用することで、街路を走行する車が減るため、周辺地区の街路の渋滞緩和に寄与。



整備の効果

湾岸線
東京方面

湾岸線
磯子方面

新山下出口
利用に比べ
約6分短縮

三溪園出口
利用に比べ
約13分短縮

関内・関外地区
(市役所付近)

「その他の事業効果」

○歴史的建造物が点在する関内地区の景観に調和するデザインを採用し、魅力的な都市景観の創造に寄与。

具体的には、

- ・橋脚の形状：円柱とし、下部に絞りを入れたテーパ状とした（写真①）
- ・橋桁の形状：ブラケット及び高欄を円弧形状とし一体感を創出、スリットを入れリズム感を演出（写真②）
- ・擁壁：チップングの表面処理を施し、壁面に柔らかさを与えた（写真③）



○高架下の歩道の再整備を併せて実施し、開放的な歩行者空間を創出。

事業前写真

平成17年12月撮影



平成18年1月撮影

平成18年1月撮影



事業後写真

平成19年12月撮影



平成20年1月撮影



平成20年6月撮影

